

## 赤ちゃんの聞こえに関する検査「新生児聴覚スクリーニング検査」について

赤ちゃんの 1000 人に 1～2 人位の割合で先天的に難聴が発生すると言われていています。ところが、これまで耳が聞こえないという診断がつくのは、2～3 歳であり、発見の遅れが言語発達にも影響を及ぼしていった。しかし、近年、新生児を対象に測定することが可能な機器が開発され、産科医療機関で検査できるようになりました。

この検査は、赤ちゃんが生後 2 日頃から退院までに行われている検査で、眠っている赤ちゃんにささやき声程度の音を聞かせ、その刺激に反応して起こる変化を調べる検査です。

大きく分けて 2 種類の検査機器があり、AABR（自動聴性脳幹反応）と OAE（耳音響反射法）が使われています。

新生児聴覚スクリーニング検査費用は、保険医療ではないので医療機関によって異なり、出産費用に含めて行う産婦人科や、また希望者に数千円の費用で行うところもあります。

### 赤ちゃんの聞こえに関する問い合わせ・相談機関

- ・熊本県福祉総合相談所（聞こえやことばの遅れについての相談、聴力検査に関すること）

〒861-8039 熊本市長嶺南 2-3-3

TEL：096-381-4411 fax：096-381-4412

- ・難聴幼児通園施設 熊本県ひばり園（難聴のこどもを育てていくための支援等療育に関すること）

〒861-8039 熊本市長嶺南 2-3-2

TEL：096-382-1939 fax：096-385-7974